

心と心のふれあい広場

# 竜王

第79号  
令和6年1月1日



山口県関門海峡にて

北岡組社員旅行 福岡（博多）

11月11日～12日

最終ページにも掲載



▲IGE(日本の公団のような機関)ジルダ総裁(左から4人目)から記念のタイス(現地の伝統織物)を頂き記念撮影  
吉森(左端 JDRAC 現地代表)、北岡(左から3人目)、川又副会長(同5人目 元陸将)、加藤、長尾、浦野(元陸自)の順

## 巻頭特集

# 東ティモール渡航記



久しぶりに東ティモールを訪れた筆者。4日間の滞在中の出来事、所感などを記す。街や人々、豪雨災害を受けたヘラ村の様子等、東ティモールの現状が明らかに…！？

文・北岡 真文

株式会社北岡組 代表取締役社長



### JDRAC とは

2002年に独立した東ティモールにおける陸上自衛隊の国づくり支援を引き継ぐ形で自衛隊OBを中心に結成されたNPO法人。北岡組は発足当初より支援を続けている。

北岡組がJDRAC(日本地雷処理復興支援センター)を支援し始めてから20年近くになる。自衛隊OBが作ったNGO(非政府国際協力組織)であり、独立直後の東ティモールの復興にほぼ切れ目無く関与し続けている。私も2004年6月に初めて訪問(その後続けて4回訪問)して以来の5回目の訪問ではあるが、久しぶりの訪問である。

今回のミッションはJDRACの前事業【歴年にわたるテーマ毎の人材育成支援事業として、前回「建設機械等整備士養成事業」であった】の「閉講式」と次年度の事業のネタ探しであり、自衛官OBの川又さん、浦野さんそして民間人の加藤さん、長尾君、私の計5人の渡航である。

### 五月八日 デイリ到着

久しぶりであった。19年ぶりのデイリ空港に降りたっての第一声「ちっとも変わっていない、何だこれ！」

サーカス小屋を連想する赤い尖り屋根の東屋風ゲートが出迎えて

くれる風情は昔から変わらない。  
「なんで発展してないの？なんで  
建て代わってないの？」

入国手続きに時間をとられ予約  
していたトヨタ四駆に乗ったのは  
到着して一時間を遙かに超えてい  
た。



総勢五人（元陸将の川又副理事  
長、元陸自の浦野さん、不動産業  
の加藤前理事長、私に北岡組営業  
部長でもある長尾理事の計五人）  
が古びた車の荷台シートに乗り、  
多少ポルトガルの血が混ざったと  
思われる運転手と明るい通訳の現  
地女性が助手席に乗る。パターンは  
このときに決まった。それ以降同

じ位置に座る。車でラウンドアバ  
ウトの交差点を通過する。道路沿  
いの風情も昔とさほど変わらな  
い。オートバイが増えているのと  
よく見ると道路もきれいに舗装さ  
れている。ディリ市街も雑然とし  
た最貧国らしい街並みであるが、  
所々に10階建て前後のビルが建っ  
ており信号機も設置されているの  
は昔と違う。人が増えていること  
と車も増えている以外総じて昔と  
変わり映えしない印象を持ちなが  
ら車は走る。

海岸線を走る道路はディリの大  
動脈である。日本大使館やアメリ  
カ大使館そして国会議事堂等々が  
立ち並ぶ幹線道路である。国会議  
員選挙期間中であり各政党支持の  
一群が群れを成して党旗を掲げ  
オートバイで走る。蒸せるような  
光景である。



プラザホテルでチェックイン。  
思ったよりはきれいなホテル。マ  
リアの原因である蚊を退ける為  
か室温を低くしてあり寒くもあ  
る。身支度をすませ目的のレスト  
ランに向かう。その幹線道路沿い  
にあり道を渡るのにも命がけの感  
がある。後で運転手に聞いたが道  
路を渡る時は右手を突き出し合  
図しながら渡ると自動車はスピー  
ドを緩めてくれるらしい。勇気が  
いる。しかし走っている自動車の  
運転技術は相当なものである。間  
一髪で接触しない技は「慣れ」で  
片づけられない運転技術である。

昔は「死亡事故したらヤギ一頭で  
話が済む」という不謹慎な話も思  
い出しながら、幹線道路を小走り  
に横断した。

レストランでは現地代表の女性  
吉森さんと合流し現地スタッフの  
方々も集まり懇親会なる夕食会が  
始まった。地元料理では人気の店  
とのことではあるが、タイやフィ  
リピンで食べた無国籍料理の類で  
あり、私にはさほど美味しいとは思  
えなかった。雨期の終わり頃で

ありとにかく蒸し暑い。ビールも  
ぬるく氷を入れて飲んだ。現地ス  
タッフの臨場感あふれる苦労話を  
聞きながら、とにもかくにもディ  
リ到着初日の夕食は終了した。

五月九日

―GE・ヘラ村・木村大使

ディリ二日目は後から振り返る  
と最も忙しい行程であった。そう  
とは知らずホテルで朝食をとった  
後、IGE総裁とのアポまであい  
た時間に加藤・長尾両氏と近辺の  
散策に出かけた。このプラザホテ  
ルの近辺がディリ市内の中心地に  
なるのであろう（そうは思えない  
が）。ディリ市自体が狭い街であ  
り、海沿いに伸びた街並みではあ  
るが車で10分？も走れば抜けてし  
まう。ホテルの近辺の海沿いの幹  
線道路沿いには国会等の施設が建  
ち並ぶ。数本奥の道沿いには国立  
ティモール大学もあるがすべて歩  
いて行ける距離である。

小学校には元気な子どもたちが  
たくさん授業を受けていた。簡素  
な屋根がついているというだけの  
雰囲気のある平屋の学舎では、私が手

を挙げて送った合図に元気よく反応して答えてくれた。街を歩く老若男女は、濃淡はあるが褐色系で細くて小柄な人が多いが、あまり目を合わせず大人しそうな日本の一昔前の田舎の人のようである。19年前はもっと色濃くミクロネシアっぽい印象だった。

約束の時間より早くIGEについて。JDRACにとっては「組立ハウスの技術指導」から今までの東ティモールでの事業の窓口機関のような部署であり、国土復興の執行機関のような部署である。以前もそうであったが今も貧弱な建物だ。IGE総裁は女性のジル

ダ総裁。会議室でひとしきりエールの交換をしたが川又さんが以前の第4次PKO部隊の群長であったことを知り総裁の態度が丁寧になった。その後総裁室で地元伝統織物「タイス」が各人に贈呈され記念撮影。(2ページ写真)

午後からはいいよ「ヘラ村」現地踏査。デイリ市内から山手側を走り車で数十分の近郊の村。海軍の停泊基地ヘラ港やヘラ工科大

学(国立ティモール大学のヘラ分校?)もある要衝ではあるが見た目は牧歌的な田園地帯である。2年前に豪雨の大災害で河川が氾濫し大きな被害が出た地域である。アポの時間に合わせてヘラ村村長に面談。日本の田舎の集会所のような建屋で村長は待っていてくれた。イメージを裏切らない土着の人の風貌であり20分ほど面談。

村長から指摘された「災害に遭ったが放ったらかしの小学校」二箇所の踏査におもむく。

上流からの激流が校舍近くをえぐっている。一箇所は校舍の一部も崩壊したまま。



夜は木村大使の公邸に川又・加藤・吉森・私の四名が招待され、料理のフルコースを緊張感の中で食し記念撮影。当然に持参した正装に着替えて(といっても襟付きのシャツにジャケットと紺のスラックス、それにユニクロの室内用黒靴700円?を行事用として持参)。木村大使からは「今後もレ

ガシーを残して欲しい」旨の話。JICA伊藤所長からは「日本のODAで空港建て替え計画が来年から始まる」話も聞いた。「建物の構造が脆弱で柱が細い。財務省の15階建て建物には、始めは怖がって入居が進まなかった。しっかりした建築基準法のような法規は無いのでは?」とのこと。

### 五月十日 「閉講式」

本日が東ティモール渡航のメインイベント「JDRAC建設機械等整備士養成事業の閉講式」である。式典会場はIGEの敷地内の各種重機置き場のうち、屋根のある場所の重機を移送し、間に合わせのスペースに設営されていた。約90人の参加者(来賓以外は講義

の卒業生とか関係者)と、来賓としては公共事業省大臣代理、IGE総裁、関係部署の幹部、ヘラ工科大学教授・・・日本からは木村大使、伊藤JICA所長それに川又さんと吉森現地代表にひな壇の間に合わせのソファ一席が用意されて、式はすすめられた。



閉講式の後、私と加藤さんはフリーに。この時間を利用してデイリ市街の雰囲気や、ディープな所を散策しようと思いを省みず出かけた。一万四千歩は歩いたであろうし、汗を1リットルはかいたと思う。シャツも持参したタオルも汗いっぱい。しかしながらそれな

りの成果はあった。ヘラ村へ行く山側の道に通じる街路である。まずは建材店らしき店の多いエリアを通り、冷蔵設備らしき機能を保持している集積所にも以前の街並みとは違うものを感じた。以前は小売り店にも冷蔵庫らしきものがあつた記憶が無いし、路上で生魚を売っているのを見て信じられなく思った程である。今回はスーパーにも冷蔵庫があり肉類等々が売られているし、物流にも冷蔵設備のある集積所らしきものがサプライチェーンとして組み込まれてはいるようだ。



しかしながら変わらぬ貧しさも多く、比較的大きい病院（国立病院と後日知らされた）近くのスラム

ム街らしきエリアは全く以前と同じ。ドブに入って汚した自分のスニーカーを病院の水道で洗った。コレラ菌が付いていそうで気分が悪い。もっと先まで歩き、同じくスラム街のようなどころで不穏な若者がたむろしていたので散策を止めホテルに引き返した。肉体的に大変だったが（加藤さんはゴルフ慣れしていて疲れていない様子）いいパッションを感じた散策であつた。ただし歩道が排水官のせいかなる所に段差を付けてあり、おおよそユニバーサル設計にはほど遠く、そのお陰で一万四千歩以上の負担が腰にきてしまった（帰国後も数日腰痛）。

五月十一日

公共事業省JICA、病院

川又さん等が情報収集のために公共事業省に訪問している間、民間人3人の昼食となつた。30分くらい散策し、 구글で評価の高いポルトガル料理の店に入る。ポルトガル系の人達が何組かいた。ドラフトビールが美味しい。グリルチキンとシーフードライス（シー

フードリゾットのようなもの。これが今までの現地料理の中で一番美味くビネガーを掛ければなおのこと美味しかった）を3人で食した。精算時5ドル以下は1ドル紙幣の支払いが嫌がられて使えなく、コインでの支払いを要求された。以前の1ドル紙幣は薄汚く湿っていた。コインの支払いに代わって良かったのかもしれない。次いでJICA事務所訪問で伊藤所長以下現地職員5、6人との情報交換である。とりとめもない情報交換ではあつたが。

その後吉森現地代表を拾い国立病院の見学。昨日加藤さんとスラム街？を散策した折、汚したスニーカーを洗った洗い場がある。人混みは凄い。国内で入院できるのはこの病院だけ。各県にも簡単な医療施設はあるらしいがレベルが低く結局この国立病院に搬送される。この病院もCTはあるがMRIは無く薬もWHO指定の薬しか無い。医師も不足。怪我や重病になつたら数日に1回の商用のシナガポール行きの飛行機に乗りシ

ナガポールの医療機関で治療するしかない。ダーウィンもバリも良い病院が無いらしい。脳卒中などになると絶望的らしい。

五月十二日 最終日

帰国の日。飛行場に向かう前に日本のPKO部隊が駐屯したタシトに立ち寄る。廃墟になつたPKO部隊の集会所が長年の風雨で朽ちている。その前で川又さんとツーショット。19年前に川又群長に初めて会つた場所。川又さんはあの頃の私のことを当然に覚えていない。同行した陸自OBの平崎初代理事長のことしか覚えていない。



バリ空港からデンパサールに、そしてシンガポール経由成田空港に。成田空港では入国手続きが至って簡単。到着の5人はそれぞれ別の路線で帰路に着いた。それにしても日本は驚くほど静かでない。

# ハントレス次長

## 社内DXを語る

前号から引き続き、取り組みの状況を報告いたします。

請求書の電子化は、運用9カ月現在で、ほぼ100%まで達成いたしました。そして、現在、次のステップとして、支払業務の自動化に取り組んでおります。

これまでは毎月、紙で仕訳伝票をおこし、それを元に会計ソフトへ入力、それと並行してエクセルで集計を行い、支払処理を行うというサイクルで行ってまいりました。会計ソフトへのデータ連携（クラウド会計の導入）については、これから着手するところですが、取り組み半ばの現状においても作業時間は40時間も削減されました。

ただ、これまでコツコツと実績を積み上げられてこられた諸先輩方の管理・処理方法は素晴らしく、

それらの業務がどのように行われていたかを分解し、一旦これまでのフローを忘れ、一から組み立てていく作業は想像していたよりも大変なものでした。

北岡組のやり方にすべてカスタマイズもできませんし、またIT化できない部分もありますので、それらを融合させていくためには、まだまだ運用のブラッシュアップは必要だと実感しております。

また、注文書の電子化も試行が始まっております。弊社の取り組みは一例ではありますが、お取引先様よりお声などいただきながら、今後も取り組みを続けて参りたいと思います。

### 勤怠ソフトの導入

令和6年4月1日より、建設業においても時間外労働の上限規制

が適用されます。

弊社においても、これまで労働時間の管理が課題となっており、今後は、勤怠ソフトの導入に向けて、社内運用ルールを整備し、改正までには運用を開始する方向で進んでおります。

### グループウェアの導入

本社改修工事完了後、社員の机のフリーアドレス化が決定しております。紙での情報共有がますます難しくなることから、グループウェアのサイボウズの導入試行が社内数名で始まりました。北岡組に合わせてカスタマイズし、ペーパーレス化、省力化に繋がっていくと試みています。

一人一台のタブレット支給により、ペーパーレス化に対応したツールも着々と準備が進んでおります。

ハントレス 佳織  
管理部 経理次長

2019年入社管理部配属

現在、経理次長として仕事と子育ての両立に奮闘中。



### 結びに

改修工事後は、オフィスでの働き方が大きく変わってきます。また、時間外労働の上限規制など、様々な制約が強いられてくる中で社内DX化ですので、上手く機能するように仕上げていかないと、通常業務に支障をきたします。しかしながら、待った無しの状況でもありません。

引き続き、ご支援の程お願いいたします。

TOKYO 東京  
JAPAN

## 北友会研修旅行

10/13 ~ 14



北友会の研修旅行に十月十三日  
〜十四日の一泊二日で行って参り  
ました。  
コロナ禍だったため、実に四年  
ぶりの研修旅行となりました。研  
修旅行の目的は、東京都内で北岡  
組が施工する、賃貸マンションの  
建築現場の視察です。今回の参加  
人数は十七名で、羽田からはバス  
での移動となりました。そのほか  
皆さんとの距離も近く、終始  
楽しい雰囲気にも含まれていまし  
た。

今回の目的である、港区芝大門  
にて施工中の賃貸マンションの建  
築現場です（右の写真）。参加さ  
れた北友会会員様より、都内中心  
部での施工体制等、多数のご質問  
をいただき、現場技術者である河  
野東京担当部長より説明を行いま  
した。その後、バスで移動し、北  
岡組の東京建築第一号物件で平成  
三十年二月竣工の「プラチナコー  
ト上野入谷」と北岡組のオリジナ  
ルマンション第一号物件「Vior  
千駄木」の建設予定地を車窓越し  
に見学しました。

おなかもすいてきたところで次  
に向かった一日目の夜は、皆さん  
が待ちに待った、屋形船での夕食  
です。両国国技館近くの両国乗船  
場から屋形船に乗り込み、東京湾  
を周遊しながら、美味しいビール  
と揚げたての天ぷらを堪能しまし  
た。東京湾から見る東京の夜景は、  
本当にキレイで、デッキでの全身  
に感じる夜風がとても気持ちよ  
かったです。屋形船は、今回参加  
された会員様の全員が初めてとい  
う事もあり、皆さんとても満喫さ  
れていました。



二日目最初の見学先は、「男は  
つらいよ」シリーズのロケで有名  
な柴又帝釈天を参拝した後、帝釈  
天参道を散策しました。

(7)

昼食は、柴又で歴史のある鰻老  
舗店で、鰻重をいただきました。  
箸で優しくほぐれるほど上質な鰻  
で、こんなに美味しい鰻重は、久  
しぶりでした。こうして二日目の  
予定もすべて満喫し、帰路に向か  
いました。  
久しぶりの研修旅行という事  
で、皆様との親睦が深まりました。  
ご参加いただいた北友会会員の皆  
様、本当にありがとうございます  
た。

筆者.. 新居 直樹



大盛り上がりの  
博多の夜

4年ぶりの  
社員旅行  
博多



▲東急ステイ博多ロビーにて記念撮影